（様式⑦-1 小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立新檜尾台小学校
校長　古谷 俊之

中学校区におけるめざす子ども像
社会の中で人とつながり，よりよく生きる子

令和7年度　重点目標
（1）自立貢献～「探究」と「協働」を真ん中に置く学校をめざす～
（2）具体的なめざす力・像
育てたい力・・・・・考える力
めざす児童像・・・・発想豊かな児童
めざす教職員像・・・「良き伴走者」「つなぐ・つなが（げ）る」教職員

確かな学びの現状と今年度の基本的取組みに関する考え方

令和4年12月に中央教育審議会が公表した「令和の日本型学校教育」は，長年続いた戦後の知識注入型学びにおいて一つの解を求める「正解主義」や集団において個人が他の人と意見を合わせるように誘導される「同調圧力」を克服して，すべての子どもを「自立した学習者に育てる」ことが示された。この公表を受けて本校では，学校教育目標を「自立貢献～「探究」と「協働」を真ん中に置く学校をめざす～」を掲げて一昨年度をスタートさせた。具体的には，高学年における「教科担任制」と低・中学年における「授業交換制」の導入である。教科担任制・授業交換制は教職員の専門性を育成しながら,授業の質の向上を図り，児童一人ひとりの理解度・定着度を更に図る。同時に複数の教職員が関わることにより多面的な児童理解を図り，学校全体で児童を育成する意識を高める。
昨今AIやチャットGPTが急速に進化し進む中，昨年度より一定の基礎知識をベースにした上で「考える力」「行動する力（第一段階として地域での行動）」を目指し，実践を伴う探求力向上につなげ，特に総合的な学習を通じて児童が主体的に地域と協働することを本年度バージョンアップして進める。（新檜尾台オリーブプロジェクト等）学校群としても「防災・減災活動」に取り組み 一昨年度末に完成した児童の手作りの防災パンフレット及び昨年度完成した「防災カルタ」の活用し，防災・減災教育の新たな進化，キャリア教育と融合した社会や地域での活動等を行う。また，「学びのコンパス・STEAM教育」推進にあたり，「総合」をキーとするカリキュラムマネージメントを意識した「つながる教育」を重視する。以上の実現を図るためにICTを駆使した「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく行い,学校教育目標の実現 に向かって学びの実現に努力する。

豊かな心・健やかな体の現状と今年度の基本的取組みに関する考え方

「豊かな心」　　特別活動（学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事）の充実することで，児童一人ひとりの心の醸成及び人間性の高揚を図る。望ましい集団行動を通じて心の調和と個性の伸長を児童同士，児童と教職員，児童と地域の方々と本校の特徴である「縦割り活動」や昨年から本格実施している「地域との協働活動」，特に人との交流体験を重視した心の醸成に今年度は更に力を入れて取り組む。「総合的な学習」の専科教員が配置されたことにより，一昨年度から力を入れている「防災・減災教育」の更なる深みを追究すると共に3年生から中学校3年生までの「総合」を系統立てることを考えながら，7年間の本学校群における「総合」の体系化をめざす。そのような「総合」の充実を通して，自分たちの住む社会や地域の実態を知り，進んで他の人々や集団，地域の活動や安全に貢献したい児童生徒を増やし，将来の地域の担い手としての意識向上のきっかけとさせる。これらの活動により将来地域を担う一員としての自覚が生まれ，「地域を愛する心」の醸成に結びつける。「道徳」は昨年度まで3年間行ってきた校内研修の教科として位置付けは終了するが，道徳心を意識した活動を行う。「読書習慣の確立」と「ビブリオバトル」を通して人に伝える力・コミュニケーションする力の増進に取り組んでいく。令和8年度の支援学級に関わる制度改正を意識し，支援学級とは各学年が交流会を行い，日常的にクラスで共に学んだりすることで，共に尊重し合いながら生活していく態度や心を育んでいく。これらの活動を通して，本年度も学校一丸となって，教育活動を通しての「豊かな心」の育成をめざしていく。
「健やかな体」　　昨年度より体力向上検討会議のメンバー校になったことに伴い，外部の有識者のご指導も得れるので小学校体育の本質の研究も視野に入れた活動を行う。研究の骨子は「一人ひとりに合った持続可能な運動の発見」とし，100年人生を意識した生涯に渡っての運動の意識化を小学校時代から育むことを掲げている。昨年度試行した，民間の幼・小学校体操教室を主宰している先生を定期的に招聘し，体育のカリキュラムに融合する形で「基礎体力・体と心のバランスを重視した健康体操教室」を実施する。縦割りを意識したなわとび活動の充実，校外的には連合運動会等全市的な体育行事，地域での体育的交流行事，幼少連携体育行事等を企画或いは参加して，「健やかな体」の育成をめざす。
「VUCA時代に生きる本校の子ども達が心身共に強く生きる少々わんぱくでたくましい檜尾っ子」 をめざす子ども像とする。

	中項目	具体目標	具体的な取組（●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準（評価のものさし）		評価時期	進捗確認（～11月）		達成状況(年度末) 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	基礎学力の定着	「読む・話す・聞く・書く」力，計算力の育成	・朝の読書タイム(火・木曜日)，読書ノートを使用した図書室の本の貸し出し等を通して，読書意欲を高める。秋以降は，読むことを話す聞くことにつなげる「ビブリオバトル」も取り入れ，総合的な学力の展開につなげる。（●教科担任制・授業交換における課題・次のステップの考察）	・学校独自アンケートの「読書30分以上」の児童全体の割合を昨年度以上 読書ノートの冊数状況。ビブリオバトル開催数。（担当教諭との対話の充実）	学校独自アンケート 読書ノート	年度末 毎学期	○	各クラスでビブリオバトルに取り組み，読書習慣の醸成を試みている。	○	図書室以外にも本に親しめる場所を増やしたりすることにより「読書30分以上」の児童全体の割合が昨年度よりわずかであるが上昇した。ビブリオバトルを年3回行った	○	読書習慣の定着に引き続き取り組んでほしい。
			・5.6年生の算数で専科指導を実施し，児童の理解度に応じた基礎基本の着実な定着を図る。	すくすくウォッチ・全国学力調査の正答率を大阪府平均以上	すくすくウォッチ 全国学力調査	年度末			○	5・6年生とも，大阪府・全国の平均を上回っている。	◎	「わかる授業」の実施を期待する。
			●総合的な学習の時間及び生活科の時間と学級活動の話合い活動を通して，自分の意見を分かりやすく伝える力，人の意見をきちんと聞く力，異なる意見に対して調整する力などコミュニケーション力を育てる。	各話合い活動の目標がほぼ達成できたか。	話合い活動の観察	毎学期 年度末	○	授業の中で話し合い活動を必ず1回以上取り入れている。	○	年間を通して，各授業で話し合いの場面を設定した。今後は，内容の充実に取り組みたい。	○	積極的に交流する姿が見られた。
		家庭学習の習慣の定着	授業についての調べ学習や復習，日記など自主的な家庭学習として「ひのおスタディ」に全学年取り組ませる。学習手法の高度化を取り入れ効果的な家庭学習を目指し，来年度に向けてICT等を使った個別最適な家庭学習の考察，実証試験の実施を行う。	各学年の提出目標値以上	ノート提出率	毎学期	◎	各クラス，100パーセントに近い提出率。	△	「ひのおスタディ」は定着している。ICTも効果的に取り入れつつすすめたが個別最適な家庭学習の進め方についてはまだ課題があるといえる。	△	子どもが学び方や学ぶ内容を自分で選べるような環境をさらに整えてほしい。
	授業改善	学習環境づくりの共通理解	・「ひのおスタンダード」を教職員で共通理解し，全員が同じ方向での学習規律・学習環境づくりに取り組む。・低学力層の学力伸長の環境づくりを考察し基礎力の充実を図る。	全学級が同じ方向で取り組んでいる。	ひのおスタンダードチェックシート	年度末	○	研修主任を中心に学習環境づくりに取り組んでいる。	◎	個別最適な学びを実施すべく，研修委員会で検討を重ねている。検討内容を各クラスで実施し，低位層の引き上げを行っている。また，通級指導教室を有効活用し，個別の課題に対するトレーニング	◎	どの児童も同じ質の授業が受けられるよう引き続き取り組んでほしい。
		ICT化を見据え児童がタブレットを使う機会を増やす	・タブレットを授業で使う機会を増やすことを教職員で共通理解し，それぞれのクラスで積極的に使用する。	全学級で使う回数が増えている。	実践報告	年度末			○	全学級でタブレットを使う機会は増えている。今後は回数だけでなく効果的に用いる方法を模索したい。	◎	ICTの効果的な活用を期待する。
		考える授業の展開	・「特別活動」「道徳科」「総合的な学習の時間・生活科」等の研究授業や公開授業を通して，探究学習を意識した授業の展開を図る。	全教員が公開授業を実施。	実施報告	毎学期	○	全教員による公開授業は計画通り進んでいる。	◎	計画通り，公開授業を実施した。次年度は教育課程の中に「探究」の時間を設け，さらにすすめていく。		さらに児童の学びを深めてほしい。
			●子どもたちで課題解決が行える授業，分かる喜びや学ぶ楽しさを実感できる授業づくりをめざす。可能な「考える」学びを更に一歩前進させ，地域社会で実践できる取組を行い，学びを概念化する。	児童がノートに自分の考え・思いをしっかり書いている。 学校評価アンケート「先生の授業は分かりやすい」(児童)，「学校は児童が学びたくなる授業を行っている」(保護者)	授業でのノート等 授業スタンダードチェックシート 学校評価アンケート	毎学期 年度末	○	自分の考えを書くことができる児童が増えてきた。	◎	12月に実施したアンケートでは，児童・保護者とも肯定的回答が9割を超えている。引き続き，「わかる授業」「深い学び」を実施したい。		
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	生徒指導の充実 ★赤坂台中学校区グランドデザイン「めざす子ども像の育成」低・中・高学年別集団による意識の向上	・「あいさつ」「清掃」「廊下歩行」「トイレのスリッパの整頓」を重点項目として指導の徹底を図る。	学校評価児童アンケート「自分からすすんであいさつをしている」 学校独自アンケート「近所の人に，あいさつをしている。」「学校のきまりを守っている。」	学校評価児童アンケート 学校独自アンケート	年度末	○	重点目標に取り組んでいる子どもの姿が多くみられる。	○	重点目標に取り組んでいる子どもの姿が多くみられる。児童アンケートでも肯定的な回答が多数であった。	◎	児童のあいさつはよくできている 清掃活動の大切さも児童には必要
			●児童会・学級会・「あおぞらグループ活動」(縦割り活動)を充実させ，自他のよさを認め合うことができるようにする。 ★学校群の児童生徒の約束の推進・活用 ★集団の中で自分と向き合い，積極的に自分の役割を果たし，他者とともに成長しようとする子どもを育てる。 ★自分の違いを認め合い協働できる子どもを育てる。 ★責任感と思いやりをもった行動ができる子どもを育てる。	学校評価アンケート「あおぞらグループ活動は楽しい」(児童)，「思いやりの心や感動する心などを育て，いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」(保護者) 教職員アンケート「子どもは集団の中で自分と向き合い，積極的に自分の役割を果たし，他者とともに成長しようとしている」「子どもは自他の違いを認め合い協働できる」「子どもは責任感と思いやりをもった行動ができる」	学校評価アンケート 新檜尾台・赤坂台両小学校教職員アンケート	年度末 12月	◎		◎	児童・保護者アンケートは肯定回答が9割を超えており，学校での取組が評価されていると認識している。		将来，地域を担う人材育成に引き続き取り組んでほしい。
		道徳教育の充実	・年間計画に基づいた道徳の授業を実践・研究するとともに，保護者参観でも年1回道徳の授業を公開する。	全学級が参観で道徳授業を公開する	実践報告	毎学期	◎	研究授業・参観での公開と，計画通り進捗している。	○	道徳推進担当を中心に道徳教育の充実を図ることができた。	○	道徳教育の大切さが伝わった。
		人権教育の充実	・年間計画に基づいた人権総合学習の実践を通して，他人を尊重し，仲間や友だちを大切にする心を育て，自分を大切にし，自尊感情が持てる子どもを育成する。 ・本校「いじめ防止対策基本方針」を全職員が共通理解し，未然防止・早期発見・早期解決に努める。	学校評価アンケート「学級の仲間としてみんなから大切にされている」(児童)，「思いやりの心や感動する心などを育て，いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」(保護者)	学校評価アンケート	年度末			○	児童・保護者アンケートは肯定回答が9割を超えている。引き続き，「いじめは絶対に許さない」という姿勢で取り組んでいく。	○	「いじめは絶対許さない」意識を全職員で持ち続けることが大切。
		特別支援教育の充実	・支援の必要な児童を把握し，適切な配慮や支援のあり方について共通理解を図りながら，特別支援教育の充実をめざす。	校内研修を実施し，実践に生かす	実践報告	毎学期	◎	特別支援委員会を毎月実施し，個別支援の在り方について検討・実践している。	◎	支援学級・通級指導教室・通常の学級が連携し，個別の支援を計画し，実施している。	◎	特別支援教育は今後も重視されるべきである。さらなる充実を期待したい。
			・全ての子どもに分かりやすい授業や誰もが過ごしやすい集団づくり，学習環境の整備をめざし，授業のユニバーサルデザイン化に努める。	校内研修を実施し，実践に生かす	実践報告	毎学期	○	全職員を対象に授業づくり研修を行った。	○	各種研修や会議を通し，授業づくり・集団づくり・学習環境の整備を行い，評価・改善している。	○	
	体力向上	健康安全にについて理解し，積極的に運動に取り組む児童の育成	・体育の授業に加え，学校全体の取組であるなわとび朝礼などを通して，運動への意欲を高める。体力向上検討会議のメンバー校としての研究 ★不定期であるが，6年生の中学校体育専科教員による授業の実施。中学校における赤坂台小学校との中学校教諭による混成授業の展開。土曜日中学校部活動への参加。	運動への意欲 学びの診断質問紙「運動やスポーツが好き」	カード記録 児童観察 6年生及び小中教職員アンケート	毎学期	○	体力向上プランに則り，運動習慣づくりに対する取組を行っている。	○	体力向上プランを見直し，「運動のきっかけづくり」を行う。	○	生涯にわたる健全な心身の育成につながる取り組み・教育を期待している。
			・食育・保健指導を充実させ，児童が自らの健康について考える力を育成する。	食育・睡眠教育等にかかわる授業を実施する	実践報告	毎学期	◎	栄養教諭による食育指導・給食指導を計画的に行っている。	◎	栄養教諭による食育指導・給食指導を計画的に行った。	◎	今後も栄養教諭による授業を行ってほしい。
地域協働	開かれた学校	学校情報の積極的な発信	・学校ホームページ・校報等を活用し，教育活動の現状と成果の発信に努める。	ホームページアクセス数昨年度以上 学校評価保護者アンケート「学校からの文書や通信，ホームページ等の内容は分かりやすく，タイムリーである」	実践報告 学校評価アンケート	毎学期	○	HPのアップを随時行っている。PTAとも協力し，情報発信に努めている。	○	HPのアップを随時行った。PTAとも協力し，情報発信の図った。学校・保護者・地域がつながる学校づくりを進める。	○	学校の活動をさらに発信してほしい
		地域との連携	●「堺版コミュニティスクール」の組織をより強化し，教育活動，児童見守り活動等を支援できる体制とする。社会地域に開かれた学校を目指し，協働的活動の具体案として「新檜尾台小学校オリーブの森」を活用する。地域住民の生涯教育も兼ね合わせた計画・実践を目指す。	外部人材を効果的に活用する 学校評価保護者アンケート「家庭や地域と連携協力して子どもを育てようとしている」	実践報告 学校評価アンケート	毎学期	◎	地域コーディネーター協力のもと，新入生のサポートを行う「見守り先生」を実施した。	◎	見守り先生」「まるしぇ」「オリーブの森関連行事」といった，地域と連携した取り組みを行った。今後も持続可能な取り組みを地域と共に模索したい。	◎	今年度，学校と地域のつながりが深くなった。今後も協働で地域づくりを行いたい。
			●★今年度は幼保小連携及び中学校区3校の学校群を意識した活動及び地域連携における活動の3つの取組みを中心に実施する。	先ず教職員同士の話す機会を増やし，その上で相互の授業参観・公開研究授業参観や各行事に積極的に参加し，交流する	実践報告	毎学期	◎	保幼小連携会議を定期的に開催している。	◎	会議・おしゃべり会・相互の授業保育参観・合同での防災の取組，学校群会議など多岐にわたり実施することができた。	◎	今年度，保幼小の連携が密になり，系統だった幼児・児童の育成の足掛かりとなった。学校群も含め，11年を見通した取り組みを今後も深化することを期待する。

校長より(年度末)

本年度の本校の教育目標「自立貢献～「探究」と「協働」を真ん中に置く学校をめざす」に向けて多くの実践が軌道に乗った年度であった。オリーブ探究を中心に農芸高等学校・摂南大・関大とは出前授業に加え協働探究の実践を児童中心に地域・生徒学生とコラボレーションして進めた。更に小豆島の小学校との提携を結び第一弾のオンライン授業を実施出来たり，阪神阪急グループとの提携により万博で「静けさの森」で使われたベンチの寄贈を受ける等オリーブの森を通じて「探究」「協働」は浸透を図れた。この活動を通して，児童の主体的な行動の成長も多く見られ，更に4年生を中心として「学年探究」「個人探究」は教職員がファシリテーター的存在で「総合」の授業が進んだ。まさしく児童に委ねる授業展開であり，カリキュラムマネージメントに繋がるきっかけともなっている。
本活動による児童の行動変容を探るために「堺市学調」における質問回答について精査した。従来は本校高学年児童による学年傾向差はほぼなかったが，今年度は「理科」と「地域」に関する質問に関し4年生と5・6年生との比較で変化が見られた。これは，4年生の総合にオリーブ探究を取入れ，高校大学等の先生・生徒学生と協働化した活動の成果と見られる。身近で本物に接する機会が増え，オリーブが学校生活や児童の心に溶け込み，オリーブをきっかけに科学的興味が湧いている証と考える。更に地域との協働活動（一緒に出前授業受講・世話の協働作業等）により学校外で地域の方への挨拶数の向上等道徳面での改善や地域や中学生向けにポスターセッションを実施したことは自尊感情が高まり「主体的・対話的で深い学び」に繋がっている。

学校関係者評価者から(年度末)

次年度以降，新しい教育課程になるが地域も一緒に子どもたちの学びを後押しできるようにし，一緒に子どもたちを育てていくチームになれるようにしたい。50周年に向けて，小学校k・地域・幼稚園・保育園で一体となり盛り上げていけるようにしたい。
学習もだが，子どもたちの体力の低下も課題である。年間を通して暑い日も多く，外遊びに制限がかかることが多いが，朝の活動など工夫して体力向上の取り組みをしてもらいたい。